

法政大學講義録

中松, 盛雄 / 三宅, 徳業 / 今村, 次吉 / 島村, 他三郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

29

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

42

(発行年 / Year)

1906-03-07

090
1903
5-29

郡制

法學士 島村他三郎講述

郡制ノ規定ハ僅少ノ例外ヲ除クノ外殆ト府縣制ト其規定ヲ同ス而テ既ニ松浦學士カ府縣制ニ付周到ナル講義ヲ了セラレタル今日ニアリテハ強テ郡制ノ各條項ニ付逐一講述スルノ寧ロ蛇足ノ嫌アルヲ信スルカ故ニ特ニ郡ニ關シ詳説スル必要アル事項ノ外同一様ノ理論ヲ反覆セサランコトヲ期スヘシ

第一章 郡ノ性質

郡ハ府縣及市町村ト同シク國家事務ノ一部處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ處理スヘキ公法上ノ義務ヲ負擔スル公法人ニシテ所謂地方自治體ノ一ナリ而テ我國ニ於ル地方自治體ノ階級ハ府縣ヲ最上位ニ置キ町村ヲ下級ニ置ク

カ故ニ郡ハ中級ノ地方自治體ニシテ市及島ト對立スト認メサルヘカラス
外國ニ於ル地方自治體ノ種類及其階級ヲ按スルニ佛國ニアリテハ地方の區劃
トシテ縣 (Département) 郡 (Arrondissements) 及市町村 (Communes) アリト雖縣及市町
村ヲ以テ自治團體ト認ムルニ止リ郡ハ單ニ行政區劃ニ過キサリナリ又澳國ニ
アリテハ縣 (Land) 郡 (Part) 及市 (Stadt) 町村 (Ortsengen) ノ別アリト雖郡 (Be-
zirk) ハ全國共通ノ自治體ニアラス隨テ同國ノ制度トシテハ寧ロ之ヲ例外的ノ地
方自治體ト認ムルヲ以テ事實ニ近シトナス英國ニ於テハ County, district, parish,
municipal borough, corporate towns 等ノ各種自治體アリテ頗ル複雑セルカ故ニ直ニ
之ヲ以テ我自治體ノ系統ト比照シ難シト雖就中 County ヲ以テ我國ニ於ル郡ト
對照スヘキモノノ如シ

我國ニ於ル郡ハ固リ地方自治體ニシテ法人格ヲ具有スルコト郡制第二條ニ依
リ明白ナリト雖單純ナル行政區劃以外自治體ト認メラレシ沿革ニ至リテハ府
縣及市町村ト之ヲ同一視スルヲ得サルモノアリ蓋府縣及市町村ニアリテハ事
實上及法制上自治體タルノ沿革既ニ遠シト雖郡ニアリテハ本來行政區劃ニ過

キナリシカ郡制ノ發布ニ依リ法ノ力ヲ以テ始テ自治體タルノ性質ヲ具有スル
ニ至リシカ故ナリ從テ團體ノ目的タル事務ニ關シテモ自ラ立法上其規定ヲ異
ニセルモノアリ府縣制第二條ハ府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範
圍内ニ於テ其公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律命令ニ依リ
府縣ニ屬スル事務ヲ處理スト規定スルモ郡制第二條ハ之ト異リ郡ハ法人トシ
官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務並法律命令ニ依リ郡ニ屬
スル事務ヲ處理スト規定セルカ如キ以テ見ルヘシ

府縣及町村ノ中間ニ自治體トシテ郡ヲ認ル立法上ノ利害得失ニ至リテハ事固
リ行政法ノ範圍外ニ涉リ且郡制ノ講義トシテ特ニ之ヲ論スルノ必要ナキカ故
ニ唯其大體ニ付キ説明センニ府縣ハ其廣狹固リ一様ナラスト雖比較的地域
廣潤ナルカ故ニ經濟其他水利土木等ノ事項ニ關シ利害關係ヲ異ニスル地區ヲ
包含スルハ不得止所ナルト同時ニ最下級ノ團體タル町村ノ區劃ハ多ク從來ノ
沿革ニ本キテ其地區ヲ限定セルカ故ニ各箇町村ノ自治力ヲ以テ經營シ得サル
事項ニシテ數箇町村ノ公益上共通ニ施設スヘキ事務ハ勢府縣及町村ノ中間ニ

一ノ團體ヲ作リ其經營施設ニ任セシムルノ必要アリ之現行制度カ中級團體トシテ郡ヲ認ル立法上ノ主要ナル精神ナルヲ疑ハス乍併他ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルトキハ數町村ニ共通ナル事務ニ付テハ町村組合ノ制アルカ故ニ如此組合ヲ以テ其事務ヲ處辨シ得ヘキカ故ニ強テ郡ヲ設ケテ以テ自治體ノ系統ヲ複雜ナラシメ率テ行政事務上繁文ノ弊ヲ生スルハ敢テ其利アルヲ見ストノ反對論ヲ生スルノ餘地ナキニアラス

第二章 郡ノ構成要素

郡ハ土地及人民ヲ以テ其構成要素トナスコト他ノ地方團體ト異ルコトナシ今分チテ之ヲ略説スヘシ

第一節 土地

郡カ包含セル町村ノ地區ハ同時ニ郡ノ領域ヲ爲スモノニシテ郡ノ區域ハ從來ノ沿革ヲ踏襲スルヲ以テ原則トナスコト向他ノ自治體ト異ル所ナシ郡制第一

賣費用ヲ控除シタル殘金若クハ競落セサリシ物ノ供託

第十九條

第三者カ競賣ノ目的物ニ關シ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルカ爲メ執達吏ニ於テ其ノ競賣ヲ停止セントスルモ競賣物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルニ因リ又ハ遲滞ノ爲メ著シク競賣物ノ價格ヲ減少スル虞アルニ因リ執達吏カ競賣ヲ續行シタル場合ニ於テ競賣吏カ爲ス所ノ競賣得金ノ供託

第五 衆議院議員選舉法

第八十五條

選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人カ選舉訴訟同法第八十條ヲ提起スルニ當リ保證金トシテ爲ス金三百圓若クハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ノ供託ニ當リ
當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルヲ以テ當選訴訟同法第八十二條ヲ提起スルニ當リ保證金トシテ爲ス金三百圓若クハ之ニ相當ス

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

五〇

ル額面ノ公債證書ノ供託

第六 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法

第四條第三項

軍法會議カ軍法會議私訴裁判ニ於テ假執行假差押假處分ノ命令ヲ發スルニ當リ供託ヲ爲スコトヲ命シタルニ因リ債權者カ爲ス金錢若クハ有價證券ノ供託

第七 土地收用法

第六十條第二項

起業者カ土地物件ノ收用又ハ土地ノ使用ニ對シテ補償金ヲ拂渡スニ當リ其補償金ヲ受クヘキ者カ補償金ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサル爲メ起業者カ爲ス補償金額ノ供託
起業者カ同上ノ補償金ノ拂渡ヲ爲スニ當リ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スル能ハサル爲メニ爲ス補償金額ノ供託
起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シ不服アリ且ツ補償

金ヲ受クヘキ者ヨリ見積補償金額拂渡ノ請求ナキ場合ニ於テ起業者カ爲ス補償金額ノ供託

起業者カ其ノ拂渡スヘキ補償金ニ付キ差押又ハ假差押ヲ受ケタル場合ニ於テ起業者カ爲ス補償金額ノ供託

第八 河川法

第三十八條

地方行政廳カ河川ニ關スル工事ニ必要ナル爲メ管内ノ土地若クハ森林ノ所有者ニ對シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シ其ノ所有ニ係ル土石砂礫芝草竹木及運搬具ノ供給ヲ命セントスルモ此等供給物件ノ時價ニ關シテ協議整ハサルカ又ハ其ノ所有者不明ナルカ若クハ其ノ所有者ノ所在不明ナル場合ニ於テ尙ホ此等物件ノ供給ヲ命センカ爲メ地方行政廳カ爲ス時價相當金額ノ供託

第九 耕地整理法

第四十九條

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

五一

耕地整理施行ノ爲メ參加土地所有者ニ對シ換地ヲ交付スルニ當リ從前ノ土地ト換地トノ價額ニ差違アルカ爲メ(從前ノ土地ト換地トカ其ノ地面積等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合其ノ差額ノ補償トシテ金錢ヲ交付スヘキ場合ニ於テ從前ノ土地カ整理地區ニ編入以前ヨリ所有權ニ關スル訴訟ノ目的タルカ又ハ其ノ編入後所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲リタルカ爲メ當事者ノ請求ニ基キ整理委員カ爲ス補償金額ノ供託

第五十八條

參加土地所有者ニ對シ換地ヲ交付スルニ當リ從前ノ土地ト換地トノ價額ニ差違アルカ爲メ其ノ差額ノ補償トシテ金錢ヲ交付スヘキ場合ニ於テ從前ノ土地カ先取特權質權又ハ抵當權ノ目的タルカ爲メ整理委員カ爲ス補償金額ノ供託

第十 產業組合法

第七十二條

產業組合ノ清算ニ於テ清算人カ組合ノ債務ヲ完済セスシテ組合ノ財産ヲ分配セムトスルニ當リ清算人カ爲ス辨濟金額ノ供託

第十一 貯蓄銀行條例

第四條

貯蓄銀行カ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ爲ス預金總高ノ四分ノ一ヨリ少ナカラサル金額ニ相當スル利付國債證券若クハ地方債證券ノ供託

第十二 擔保附社債信託法

第五十七條

社債權者集會招集ノ手續又ハ議決ノ方法カ擔保附社債信託法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルニ因リ社債權者ニ於テ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求セントスルニ當リ社債權者カ爲ス自己所有ニ係ル社債券ノ供託

第八十八條

受託會社カ社債權者ノ爲メニ辨濟ヲ得タル金額ヲ債權額ニ應シテ各社

債權者ニ交付スルニ當リ社債權者ヲ確知スルコト能ハサルカ又ハ社債權者カ其ノ受領ヲ拒ミ若クハ受領スルコト能ハサル場合ニ於テ受託會社カ爲ス該金額ノ供託

第九十四條

受託會社カ故意若クハ過失ニ因リ社債ニ附シタル物上擔保動產質證書アル債權質不動産抵當船舶抵當鐵道抵當工場抵當鐵業抵當ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルカ爲メ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ主務官廳カ下シタル命令ニ基キ受託會社カ爲ス相當金額ノ供託

第十三 鐵道抵當法

第二十五條

鐵道抵當ニ於テ鐵道財團同法第二條參照ノ代價ニ先チテ他ノ財産ノ代價カ配當セラルル場合ニ於テ抵當權者カ之ニ加入シ得ルニ當リ他ノ債權者ノ請求ニ依リ自己ノ配當ヲ受クヘキ金額ノ供託

第五十一條

鐵道財團ノ競賣ニ加入セムトスル者カ鐵道事業ヲ營ミ居ラサル爲メ鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ鐵道財團ノ競賣ニ加入スルニハ競賣ニ付セラルタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ヲ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス同法第五十條競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ爲ス最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

第七十一條

鐵道財團ヲ分割シテ競賣ニ付シタル場合ニ於テ鐵道財團ノ競賣ニ於テ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキニ於テハ裁判所ハ抵當權者ノ同意アリタルトキニ限リ鐵道財團ニ屬スルモノヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得同法第七十條
競買人カ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

第十四 關稅法

第一條 關稅法施行規則第十條及第十一條

貨物ノ輸入カ單ニ通過ノ爲メナルニ依リ關稅ノ賦課ヲ受ケタル場合ニ於テ該貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者カ輸入ノ際擔保トシテ提供スル稅金ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

第三十四條 關稅法施行規則第十一條

輸入貨物ニ付キ輸入ノ免許ヲ受タルニ先テ當該官吏ノ認許ヲ得テ輸入貨物ノ引取ヲ爲サントスル場合ニ於テ該貨物ノ引取ヲ爲サントスル者カ稅金ノ擔保トシテ爲ス稅金相當金額ノ供託

第五十條

稅關カ貨物ノ收容稅關ハ船積ノ爲メニ送致セラレ若クハ陸揚セラレタル貨物ニ對シ其ノ送致又ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以內ニ之カ引取船積發送又ハ保税倉庫ニ庫入ヲ爲ス者ナキトキハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ該貨物ヲ收容スルモノトス

ニ收容解除ノ申告ヲ爲ス者ナキヲ以テ該貨物ノ記號番號種類箇數ヲ公告シタルモ尙ホ其ノ公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ解除ノ申告ヲ爲ス者ナ

キニ因リ該貨物ヲ競賣シ(收容貨物ニシテ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若クハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ右ノ期間ニ拘ラス公告シテ之ヲ

競賣ニ付スルコトヲ得ヘク又公告スルノ暇ナキ場合ニ於テハ競賣シタル後之ヲ公告スルコトヲ得第五十一條 關稅敷料其ノ他該貨物ニ關スル

一切ノ費用ニ充テ而モ尙ホ殘金ノ存スル場合ニ於テ稅關カ爲ス所ノ該殘金ノ供託

第九十條

稅關官吏カ犯罪事件ノ調査ニ由リ犯罪事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シ差押ヘタル物件ニシテ腐敗其ノ他損傷ノ虞アルヲ以テ稅關長ニ於テ之ヲ公賣ニ付シタルニ依リ爲ス所ノ公賣代金ノ供託

第十五 關稅法施行規則

第十二條 第十一條

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

關稅ノ擔保トシテ提供供託シタル有價證券ノ價格減少シタルカ爲メ増擔保ノ提供ヲ爲スヘキ場合ニ於テ擔保提供者カ爲ス所ノ金錢若クハ有價證券ノ供託

第十六條 關稅法第六條

關稅ノ擔保トシテ有價證券ヲ供託シタル者カ關稅ヲ納付セサルカ爲メ稅關ニ於テ該有價證券ヲ公賣ニ付シ關稅及ヒ公賣ノ費用ニ充テ尙ホ殘金ノ存スル場合ニ於テ稅關カ爲ス所ノ該殘金ノ供託

第十六 加工ノ爲メ輸入スル物品關稅免除ニ關スル件(明治三十三年八月關稅法第三十五條) 稅法施行規則

第十一條

加工ノ爲メ輸入スル物品明治三十三年十一月勅令第三百九十九號ヲ以テ指定セラレタル物品ニ限ルニシテ輸入ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ再ヒ輸出スルカ爲メ關稅ノ賦課ヲ受ケサル場合ニ於テ該物品ノ輸入ヲ爲サントスル者カ輸入ノ際擔保トシテ提供スル稅金ニ相當スル金錢若クハ

有價證券ノ供託

第十七 保稅倉庫法

第二十一條 保稅倉庫法施行細則第二十六條

私設保稅倉庫營業ノ特許ヲ得タル者カ其ノ開業ノ日ヨリ少ナクモ十日以前ニ於テ保管貨物輸入稅ノ擔保トシテ提供スヘキ金錢若クハ國債證券ノ供託

第十八 保稅倉庫法施行細則第二十六條

第二十八條 第二十六條

私設保稅倉庫ノ坪數ノ増加構造ノ變更若クハ藏置貨物ノ種類ニ變更ヲ來シタルカ爲メ保管貨物輸入稅ノ擔保ニ付キ増加ヲ要スル場合ニ於テ稅關長又ハ稅關支署長ノ指揮ニ從ヒ庫主カ爲ス所ノ該増加額ニ相當スル金錢若クハ國債證券ノ供託

第十九 稅關貨物取扱人法

第五條 稅關貨物取扱人法施行細則第六條

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

供託法 實地上ノ供託 供託ノ場合

六〇

税關貨物取扱人カ身元保證身元保證金額ハ五千圓以上トシテ提供
スル金錢若クハ有價證券ノ供託

第二十 税關貨物取扱人法施行細則

第五條第六條税關貨物取扱人法第六條

税關貨物取扱人カ身元保證トシテ提供供託シタル有價證券ノ價格減少
シタル場合ニ於テ税關長ノ告知ニ從ヒ補填ノ爲メ税關貨物取扱人カ爲
ス所ノ不足額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

税關貨物取扱人カ税關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルニ依リ税關ニ於
テ身元保證物ヲ以テ之ニ充テタルカ爲メ身元保證金額ニ減少ヲ來シタ
ル場合ニ於テ税關長ノ告知ニ從ヒ補填ノ爲メ税關貨物取扱人カ爲ス所
ノ不足額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

税關貨物取扱人カ其ノ業務上ノ過失ニ依リ貨主ニ損害ヲ與ヘタルニ因
リ貨主カ税關貨物取扱人ノ身元保證物ヨリ辨済ヲ受ケタルカ爲メ身元
保證金額ニ減少ヲ來シタル場合ニ於テ税關長ノ告知ニ從ヒ補填ノ爲メ

税關貨物取扱人カ爲ス所ノ不足額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供
託

第二十一 相續稅法

第十七條相續稅法施行規則第十七條

相續稅百圓以上ヲ課セラレタル者三年以内ノ年賦延納ヲ求ムルニ當リ
其ノ擔保トシテ爲ス所ノ税金ニ相當スル有價證券ノ供託

第二十二 相續稅法施行規則

第十八條第十七條

相續稅ノ年賦延納ノ擔保トシテ提供供託シタル有價證券ノ價格減少シ
タルカ爲メ増擔保ノ提供ヲ爲スヘキ場合ニ於テ増擔保提供者カ爲ス所ノ
増擔保ニ相當スル有價證券ノ供託

第二十三 酒造稅法

第十三條酒造稅法施行規則第二十三條

酒類ヲ製造スル者カ酒類製造ニ著手スル前納稅保證トシテ爲ス所ノ

供託法 實地上ノ供託 供託ノ場合

六一

供託法 買取上ノ供託 供託ノ場合

六二

酒造年度見込造石數ニ對シ一石ニ付キ四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル金銭若クハ有價證券利付國債證券地方債證券政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券酒造稅法施行規則第二十一條ノ供託

酒類ヲ製造スル者政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度ニ於テ保證物ヲ提供シ得ル場合ニ於テ其ノ都度納稅保證トシテ爲ス所ノ造石數ニ對シ一石ニ付キ四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル金銭若クハ有價證券(前ニ同シ)ノ供託

酒類ヲ製造スル者カ酒造稅法違反ノ爲メ處罰セラレタルカ又ハ造石稅ニ關シテ滞納處分ヲ受ケタルカ爲メ爾後三年間造石稅金額ニ相當スル保證物ノ提供ヲ命セラレタル場合ニ於テ之カ命令ニ基キ爲ス所ノ造石稅金額ニ相當スル金銭若クハ有價證券(前ニ同シ)ノ供託

毎酒造年度ノ見込石數又ハ査定石數ニシテ酒類製造主ノ申告シタル見込造石數ヨリ十石以上増加シタルカ爲メ酒類製造主カ其ノ増石數ニ應

シ保證物ヲ増補スヘキ場合ニ於テ酒類製造主カ爲ス所ノ増石數ニ對シ一石ニ付キ四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル金銭若クハ有價證券(前ニ同シ)ノ供託

第二十四 酒造稅法施行規則

第二十四條

酒類製造主カ保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルカ又ハ建物ノ壊倒亡失若クハ保險契約ノ消滅シタルカ爲メ更ニ保證物ヲ提供スヘキ場合ニ於テ酒類製造主カ爲ス所ノ金銭若クハ有價證券ノ供託

酒類製造主カ保證物トシテ提供シタル建物ニ對シ保險金ヲ受領シタルニ因リ爲ス所ノ該保險金ノ供託

第二十五 酒類酒精其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル件(明治四十年三月法律第十號)

第三條 同法律施行規則第三條

供託法 買取上ノ供託 供託ノ場合

六三

納税済ニ至ラサル酒精又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ輸出シタル者カ造石税ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求其ノ申請書ニハ擔保提供證明書ヲ添付スルコトヲ要スルニ當リ擔保トシテ税額ニ相當スル金銭又ハ有價證券ノ供託

第二十六 砂糖消費税法

第四條 砂糖消費税法施行規則第十五條

砂糖消費税ノ徵收猶豫ヲ求メントスル者カ擔保トシテ政府ニ於テ相當ト認ムル金銭若クハ有價證券ノ供託

第五條 砂糖消費税法施行規則第十五條

内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖糖密又ハ糖水ヲ引取ル場合ニ於テ之ヲ引取ラントスル者カ該消費税ニ相當スル金銭若クハ有價證券ノ供託

第十一條 ノ一 砂糖消費税法施行規則第十五條

政府ノ承認ヲ受ケ砂糖糖水又ハ酒類製造ノ原料トシテ砂糖及糖密ヲ製

造場税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ルニ當リ之カ消費税ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命セラレタル場合ニ於テ之カ命令ニ基キ砂糖糖水又ハ糖密ノ引取ヲ爲サントスル者カ爲ス所ノ該消費税ニ相當スル金銭若クハ有價證券ノ供託

第二十七 砂糖消費税法施行規則

第十六條 第十五條

砂糖消費税ノ擔保トシテ提供供託シタル有價證券ノ價格減少シタルカ爲メ増擔保ノ提供ヲ爲スヘキ場合ニ於テ擔保提供者カ爲ス所ノ金銭若クハ有價證券ノ供託

第二十二條 砂糖消費税法第四條第二項但書同第五條第二項但書及第十一

ノ一 第四項

砂糖消費税ノ徵收猶豫ノ擔保トシテ有價證券ヲ供託シタル者カ其ノ猶豫期限內ニ税金納付セサルカ爲メ所轄稅務署ニ於テ該有價證券ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ尙ホ殘金アル場合ニ於テ該稅務署カ

爲ス所ノ殘金ノ供託 内地消費ノ目的ニ非スシテ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルニ當リ砂糖消費税ノ擔保トシテ有價證券ヲ供託シタル者カ引取後六箇月以内ニ外國ニ輸出シタル證明ナキヲ以テ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ所轄稅務署ニ於テ該有價證券ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ尙ホ殘金アル場合ニ於テ該稅務署カ爲ス所ノ殘金ノ供託

政府ノ承認ヲ受ケ砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ砂糖及糖蜜ヲ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ニ當リ砂糖消費税ノ擔保トシテ有價證券ヲ供託シタル者カ引取後六箇月以内ニ砂糖糖水又ハ酒精ヲ製造セサルカ爲メ所轄稅務署ニ於テ該有價證券ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ尙殘金アル場合ニ於テ該稅務署カ爲ス所ノ殘金ノ供託

第二十八 非常特別稅法

第八條ノ一非常特別稅法施行規則第十四條

毛織物消費税ノ徵收猶豫三箇月以内ノ期間ヲ以テ徵收ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得テ求メントスル者カ納税ノ擔保トシテ提供スヘキ消費税額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

第二十九 非常特別稅法施行規則

第十五條第十四條

毛織物消費税ノ擔保トシテ提供供託シタル有價證券ノ價格減少シタルカ爲メ増擔保ノ提供ヲ爲スヘキ場合ニ於テ擔保提供者カ爲ス所ノ金錢若クハ有價證券ノ供託

第三十 鹽專賣法施行細則

第三十一條第三十六條

鹽ノ賣渡ヲ受ケンストスル者カ代金ノ延納三箇月以内ノ延納ヲ求ムルコトヲ得テ求ムル爲メ鹽代金ノ擔保トシテ提供スヘキ該代金ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

六八

常時鹽ノ賣渡ヲ受ケントスル者カ豫メ擔保ヲ提供シ置キ其ノ擔保物ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ求メントスルカ爲メニ該請求者カ爲ス所ノ金錢若クハ有價證券ノ供託

第三十四條第三十六條

外國鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者カ鹽務局ヨリ該鹽ノ價額ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命セラレタル場合ニ於テ賣渡請求者カ爲ス所ノ該鹽ノ價額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ハ供託

第三十五條第二項第三十一條第三十六條

外國鹽ノ賣渡ヲ請求シタル者カ其ノ鹽ノ引取ヲ爲サントスルニ當リ代金ノ延期三箇月以内ノ延納ヲ求ムルコトヲ得ヲ求ムル爲メ鹽代金ノ擔保トシテ提供スヘキ該代金ニ相當スル金錢若クハ有價證券ノ供託
常時外國鹽ノ賣渡ヲ受ケントスル者カ豫メ擔保ヲ提供シ置キ其ノ擔保物ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ求メントスルカ爲メニ該請求者カ爲ス所ノ金錢若クハ有價證券ノ供託

第三十一條 鹽專賣特別定價賣渡及交付金下付規則

第五條

同規則第一條第一項第六號ノ用途鯨鰭鰹鰯臘鰒獸鹽藏用トシテ使用スル鹽ノ賣渡ヲ受ケントスル者カ鹽百斤ニ付キ一圓三十錢ノ割合ヲ以テ

第三十二條 國稅徵收法

第三十條

國稅徵收法ニ依リ收稅官吏カ滯納處分ヲ執行シ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢アル場合ニ於テ該稅官吏カ爲ス所ノ該金錢ノ供託

第三十三條 間接國稅犯則者處分法

第七條

收稅官吏カ間接國稅犯則事實ヲ證明スヘキ物件ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其ノ差押物件カ腐敗其ノ他損傷ノ虞アルニ依リ稅務署長ニ於テ之ヲ公賣ニ付シタルカ爲メ該稅務署長カ爲ス所ノ公賣代金ノ供託

供託法 實體上ノ供託 供託ノ場合

六九

供託法 實地上ノ供託 供託ノ場合

七〇

第三十四 煙草賣捌規則

第十條

政府ヨリ買受ケタル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者カ代金
ノ延納ヲ求ムルカ爲メ擔保トシテ提供スヘキ該代金ニ相當スル有價證
券(國債證券、地方債證券又ハ政府ノ保護若クハ監視ヲ受クル株式會社ノ
株券、債券)ノ供託

當時政府ノ製造煙草ノ買受ヲ爲サントスル者カ豫メ有價證券前ニ同シ
ヲ擔保トシテ提供シ置キ其ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ求メント
スルカ爲メニ爲ス所ノ該有價證券ノ供託

第三十五 國有林野及產物賣拂代金延納ニ關スル擔保取扱方(明治三十六年 四月十六號)

國有林野及產物賣拂代金ニ對シ擔保ヲ供シテ分納ノ許可ヲ得タル買受
人カ最後ノ納期マテ代金ノ徵收猶豫ヲ請求セサルニ依リ各納期ニ於テ
納付スヘキ金額ニ充當スル爲メ主務官廳ニ於テ擔保品ノ全部又ハ一部

賣却シ其ノ代金中ヨリ納付金額及賣却費用ヲ控除シ尙ホ剩餘金アル
場合ニ於テ該官廳カ爲ス所ノ剩餘金ノ供託

第三十六 鑛業法

第六十五條 第三十八條 第十二條 鑛業法ニ關スル事項ハ鑛業法ニ從フ

鑛業權者カ他人ノ土地ヲ使用若クハ收用使用ニ付キテハ同法第五十六
條第一項收用ニ付キテハ第五十八條ニ規定アリスルニ付キ土地所有者
及關係人ト協議調ヒタルカ又ハ之ニ對スル裁決又ハ判決同法第九十二
條參照アリタルトキハ其ノ使用若クハ收用ニ對スル補償金同法第五十
九條乃至第六十四條參照ニ付キ鑛山監督署長ノ爲シタル裁決カ普通裁
判所ノ判決ニ依リ確定セサル場合ト雖モ尙ホ其ノ土地ヲ使用若クハ收
用シ得ルニ當リ鑛業權者カ爲ス所ノ該裁決ニ依リ補償金ノ供託

第三十七 砂鑛採取法

第二十一條

砂鑛採取人カ採取洗鑛製鍊所建設洗滌用水路及溜池開設ノ爲メ他人ノ

供託法 實地上ノ供託 供託ノ場合

七一

土地ヲ使用若クハ買取同法第五條第十四條第十五條第十七條參照セン
トスルニ當リ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄礦山監督署長ノ判定シ
タル採取料償地料損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付キ不服アリタルト
キト雖モ尙ホ該土地ヲ使用シ得ルカ爲メ砂鐵採取人カ爲ス所ノ該金額
ノ供託

第三十八條 外國保險會社ニ關スル件(明治三十三年九月號)

第五條

外國保險會社カ日本ニ於テ代理店ヲ設ケ保險事業ヲ營ム場合ニ於テ主
務官廳ノ命令ニ基キ保險事業ノ保證トシテ爲ス所ノ相當金額若クハ該
官廳ノ認許ヲ得タル有價證券ノ供託

以上現行法令明治三十八年十二月末日現在中供託ヲ爲シ得ルコトヲ認許セル
條項ヲ指示シ且ツ其ノ大要ヲ述ヘタリ而シテ本章ニ於テ冗長ノ誤ヲ顧ミス供
託ノ場合ヲ詳説シタル所以ハ蓋シ供託バ既述セル如ク法律又ハ命令ニ於テ特
ニ供託ヲ爲シ得ヘキコトヲ認許シタルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ

商 標 法

法 學 士 中 松 盛 雄 講 述

緒 言

商標法ヲ論述スルニ當リ商標ト一般工業所有權トノ關係ヲ明カニスル必要アリ
商標ハ工業所有權ノ一種ニシテ其重要ナル部分ヲ組成スルモノナリ工業所
有權ハ大別シテ工業の發明又ハ發見ノ所有權ト甄別的記章ノ所有權トノ二種
トス而シテ工業の發明又ハ發見ノ所有權中ニハ特許法ヲ以テ保護スル工業的
發明ト實用新案法ヲ以テ保護スル實用新案ト意匠法ヲ以テ保護スル實用新案
トヲ包含シ而シテ甄別的記章ノ所有權中ニハ商法中ニ於テ保護セラルル商號
ト商標法ヲ以テ保護セラルルノ商標ト多數ノ國ニ於テ行ハルル不正競商業禁

退ニ關スル法律ヲ以テ保護スル商品產地ノ表示博覽會賞牌ノ使用トヲ包含スルモノナリ即チ工業所有權ハ左ノ如ク分類スルヲ得ヘシ

工業所有權

(一) 工業的發明又ハ發見
(二) 甄別的記章

- | | | | |
|--------|----------|----------|-------------|
| (イ) 發明 | (ロ) 實用新案 | (ハ) 意匠 | (ニ) 博覽會賞牌使用 |
| (イ) 商號 | (ロ) 商標 | (ハ) 產地表示 | |

斯クノ如ク商標ハ工業所有權ノ一種タル甄別的記章ノ一部ヲ組成スルモノナリ而シテ甄別的記章ト工業的發明又ハ發見トハ其性質ヲ同シクスル點ハ其ニ無形ノ財產權タルニ在リテ其相違スル點ハ工業的發明又ハ發見ハ新規又ハ根原のタル要素ヲ有スルモ甄別的記章ハ該要素ヲ有セスシテ先占のタル要素ヲ有スルニ在リ

更ニ其性質ヲ同シクスル點ヲ說明センカ發明ノ權利及商標ノ權利ハ其發明ヲ應用シテ製造シタル物品又ハ其商號商標等ヲ使用シタル物品ヲ離レテ存在スルカ故ニ其物品即チ有形的複製品ノ消滅スルコトアルモ其權利ニハ變更ヲ受クルコトナク依然トシテ存在スルナリ例之宮原氏ノ汽罐發明ハ一箇ノ水管式汽罐ノ上ニ有スル權利ニ止マラスシテ該發明ヲ應用シテ多數汽罐ヲ複製スルノ權利ヲ云フナリ之ト同シク香竄葡萄酒ノ蜂印商標ハ蜂印ヲ有スル一箇ノ商標ノ上ニ有スル權利ニ止マラスシテ同一圖形ヲ有スル無數ノ商標ヲ複製スルノ權利ヲ云フナリ一箇ノ水罐式汽罐ヲ破壞スルモ宮原氏ノ發明權ハ別ニ存在シ一箇ノ蜂印商標ヲ燒棄スルモ夫ノ香竄葡萄酒ノ商標ハ依然トシテ存在スヘシ是レ商標權モ發明權モ共ニ無形の樣式ニ於テ一致スルモノナルニ因ルナリ又翻テ相違スル點ヲ說明センカ工業的發明又ハ發見ハ創始の觀念ヲ必要トス即チ既ニ公ニ知ラレタル考案ヲ爲シタリト雖モ發明又ハ發見ト云フヘカラサルハ勿論ニシテ何人モ未タ知悉セス又ハ未タ想像セサリシモノヲ新規ニ考案シテ完成セハ茲ニ始メテ發明又ハ發見ト爲ヌヲ得ルナリ故ニ發明又ハ發見ハ

必ス新規又ハ創始の性質ヲ有セサルヘカラス然ルニ甄別の記章ハ新規又ハ創始の性質ヲ具備スルコトヲ必要トセス何人ト雖モ他人ニ先チテ其記章ヲ占有セハ足ルナリ例ヘハ宮原氏ノ水罐式ノ發明ハ同氏ニ於テ新規ニ發明シタルモノナラサルヘカラスト雖モ蜂印圖形ハ何人モ既ニ知得スル所ニシテ新規ノ考案ニアラス唯始メテ之ヲ香賓葡萄酒ニ使用シタル故ニ該使用者ノ權利ニ屬スルニ至リタルモノナリ

斯クノ如ク甄別の記章ハ工業的發明又ハ發見ニ對シ其無形の財産權タルノ點ニ於テ一致シ其創始の又ハ斬新的性質ヲ必要トセサル點ニ於テ相違スルモノト云フヘシ而シテ商標ハ甄別の記章ニ關スル所有權中最モ必要ナルモノニシテ即チ商業上ノ信用ヲ表彰シ商品ノ根原ヲ識別スル點ニ於テ缺クヘカラサルモノナリトス請フ以下章節ヲ追テ商標ノ法律的關係ヲ論述セントス

第一章 商標保護ノ起因

甄別の記章即チ商標產地名看板等ノ使用ハ古代ニ於テモ盛ニ行ハレタルコト

疑ヲ容レサルナリ蓋シ商標其他ハ商人若クハ製造人ノ信用ヲ表彰シ其利益ヲ擴張防衛スルニ於テ須要缺クヘカラサルモノナルコト古猶今ノ如クナルヲ以テ未開ノ世ト雖モ荷モ商業ノ行ハル以上ハ甄別の記章ヲ使用セサルハナシ支那ニ於テハ紀元前二千六百九十八年既ニ陶器ヲ發明セリト云フ而カモ其陶器ニハ商標ヲ有スルヲ見ルナリ印度人モ亦紀元前千二百年又ハ千三百年ノ頃既ニ商工業國民トシテ知ラレ其製造品ニハ甄別の記號ヲ附シタリ又古代希臘ニ於テハ美術家カ其美術的製作品ニ手畧ヲ加フルノ習慣アルノミナラス他ノ物品ニ製造者ノ氏名及商標ヲ附スルノ實例ヲ有スルナリ又羅馬ニ於テハ數多ノ物品ニ商標及產地名ヲ附シタルコトハ記錄及遺物ノ證明スル所ナリ而シテ日本ニ於テモ刀劍類ニ刻銘セル刀鍛冶ノ氏名又記號ニ依リ商標ノ使用ヲ知ルニ足ルヘシ

斯クノ如ク商標ノ使用ハ極メテ古キヲ以テ商標ハ商業ト其ニ發生スト謂フモ不可ナキナリ然レトモ上古ノ諸國ニ於テ使用セラレタル商標ハ果シテ法律ノ保護ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤハ疑問ニシテ其例證ヲ舉グルニ苦シムナリ印

度支那日本等ニ於テモ恐ラク之ヲ保護シタルナランモ然レトモ吾人ハ未タ之ヲ確ムル材料ヲ得ス希臘ニ於テモ歐米ノ學者ハ其保護ノ存在ヲ信スルモ尙其確證ヲ舉クルコト能ハサルナリ然ルニ羅馬ニ至リテハ商標及產地名ノ使用ハ法律上ノ保護ヲ受ケタルコト殆ント動カスヘカラサルカ如シ獨逸ノ碩學コーレル氏ハ其正確ナル著書ニ於テ羅馬ニ行ハレタル各種商標ノ實例ヲ舉ケ其商標ハ製造者ノ名又ハ生産地ノ名若クハ圖形的記章ヨリ成立スルコトヲ示シ且ツ商標ノ借用ハ氏名ノ借用ノ如ク刑事上ノ制裁ヲ受ケタルコトハ疑問ナリト雖モ「コルナリヤ」法律詐偽ニ關スルニ依リ事件ノ性質ニ從ヒ或ハ私犯トナリ或ハ契約上ノ詐偽トナリテ民事訴訟ヲ許シタルコトハ爭フヲ得スト謂ヘリ又他人ノ使用スル商標又ハ看板ヲ適法ニ之ヲ使用スルヤ否ヤニ關シ羅馬ノ法律家ハ解釋ヲ與ヘテ曰ク「若シ其看板ノ使用カ他人又ハ公衆ニ損害ヲ與フルトキハ何人ト雖モ他人ノ看板又ハ商標ヲ使用スルコトヲ得スト」羅馬ヲ除キテハ古代各國ノ立法上商標保護ノ有無ヲ知ルニ由ナシト雖モ少クトモ習慣ニ依リ或ル保護ヲ受ケタルコトハ之ヲ推知スルヲ得ルナリ

中世ニ至リテハ如何ント謂フニ歐洲諸國ニ於テハ商標若クハ看板ハ普通ニ使用セラレタルノ事實アリ千五百十八年ノ出版ニ係ル「アルダス」リヴィノ刊行物ニ附シタル廣告ニ於テ恰モ今日ニ行ハル商標ノ侵害事件カ當時ニ於テ斷ニス行ハレタルコトヲ示セリ即チ右書籍ノ緒言ニ於テ終ニ余輩ハ讀者ノ注意ヲ乞ハサルヲ得サルモノアリ何ンヤ他ナシ「フレンス」印刷業者カ校正並ニ印刷ニ於テ余輩ノ勤勉ニ匹敵シ能サルコトヲ悟リ彼等カ慣用手段タル奸策ニ依賴セサルヲ得サルニ至リシコト是ナリ即チ彼等ノ印刷所ニ於テ刊行セル「アルダス」インスタイチニ「シヨ」チスグラマチセニ彼等ハ余輩ノ聲價ヲ博シタル鋪ヲ捲キタル海豚ノ標章ヲ附シタリ然レトモ聊カ注意ヲ加フルトキハ直ニ彼等ノ無細工ナル詐偽ヲ發見スルヲ得ヘシ何トナレハ余輩ノ海豚ノ頭ハ右ヲ向クモ彼等ノ海豚ノ頭ハ左ニ向ケハナリト謂ヘリ亦以テ當時商標侵害ノ狀態ハ毫モ今日ト異ナル所ナキヲ知ルニ足ルヘシ願フニ此時代ニ於テハ商標ノ保護ハ各國ノ習慣ニ依リ自然ニ保護ヲ受ケタルコトハ勿論ニシテ漸次成文法ニ依リ保護ヲ受ケタルニ至レルモノト謂フヘシ

佛國ニ於テハ商標ハ看板ト一樣ニ保護セラレ共ニ同性質ノ財産權ヲ形テ造レリ例令ヒ特定ノ法律ニ依リ保護セラルコトナカリシト雖モ公共的德義ノ保護ノ下ニ於テ存在シテ其商標又ハ看板ヲ侵害スル者ハ德義ヲ容赦スルコト能ハサル犯則行爲トシテ取扱ハレタリ是レ今日ノ所謂不正競争ノ行爲ニ該當スルモノナリ當時商標所有者ニ與ヘタル保護ハ同時ニ詐僞行爲ニ對シ社會一般ニ又ハ消費者ノ利益ハ其犠牲ニ供セラルレハナリ佛國ニ於テハ十三世紀ヨリ既ニ成文法ニ依リ他商標ヲ侵害シタル者ニ對シ賠償ノ責任ヲ負ハシメタルノミナラス亦之ニ體刑ヲ課スルニ至レリ

商標偽造ヲ禁止スル勅令ハ多アリト雖モ就中千五百六十六年ノ佛國勅令ハ金銀又ハ絹ノ織物ニ使用スル商標ヲ偽造シタル者ハ貨幣製造者ト同視シテ之ヲ處罰セリ然レトモ此勅令ハ嚴酷ニ失シタルヲ以テ永久其效力ヲ有スルコト能ハスシテ後他人ノ商標徽章ヲ偽造シタル者ハ相當ノ賠償金名譽刑及體刑ヲ課スルコトナレリ

第五項 抗告

抗告ニ關シテモ本法ハ本事件ニ付キ特別ノ規定ヲ設タルコトナク單ニ不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ニ付キテノ規定タル本法第六十條ノ規定ヲ準用セラルニ過キサル(本法第六八條カ故ニ余モ亦第一款第五項ノ説明ヲ引用スルニ止メ重キテ之ヲ説明セサルヘシ)

第六項 手續ノ費用ノ負擔者

手續ノ費用ノ負擔者ニ關シテモ亦本法ハ本事件ニ付キ特別ノ規定ヲ設タルコトナク單ニ不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ニ付キテノ規定タル本法第六十一條及ヒ第六十二條ノ規定ヲ準用セルニ過キサル(本法第六八條カ故ニ余モ亦第一款第六項ノ説明ヲ引用スルニ止メ重キテ之ヲ説明セサルヘシ)

第三節 裁判上ノ地位ニ關スル事件

第一款 事件ノ意義

訴訟事件手續法 各編 民事訴訟事件 裁判上ノ地位ニ關スル事件

裁判上ノ代位ニ關スル事件トハ民法第四百二十三條第二項本文ニ基ツキ債權者カ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債權ノ期限ノ到來前ニ於テ其債務者ニ代位シテ之ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ裁判所ニ申請スルコトヲ云フナリ

第二款 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第七三條)

普通裁判籍ノ何レノ地ニ在ルカハ民事訴訟法第十條乃至第十四條ニ規定セ

右規定ハ彼ノ債權差押ノ申請ニ付キテノ管轄裁判所ヲ規定セル民事訴訟法第五百九十五條ト同様專ラ實際上ノ便宜ニ基ツキタルモノナリ

第三款 申請ヲ爲スニ必要ナル條件

裁判上ノ代位ノ申請ハ左記二個ノ條件中何レカ其一ヲ具備セル場合ニ限りテ

之ヲ爲スコトヲ得本法第七二條

一 債權者カ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハサルトキ

二 債權者カ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキ

蓋シ右二個ノ條件ノ何レヲモ具備セサル場合ニ於テハ管ニ代位ヲ許スノ必要ナキノミナラス若シ之ヲ許サハ徒ニ紛擾ヲ醸シ債務者ノ權利ヲ害スルニ至ルヘキカ爲メナリ

第四款 事件ノ手續

第一項 申請ノ手續

總則ニ規定セル一般手續ノ外代位ノ申請ニ特殊ナル手續ハ左ノ如シハ管ニ代位ノ申請ニハ一般ノ申請ニ記載スヘキ事項ノ外尙ホ(イ)債務者及ヒ第三債務者ノ氏名住所(ロ)申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ

表示ヲ記載スヘキモノトス(本法第七四條)
 本法第七十四條ニハ記載スヘシトアルカ故ニ一見代位ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ必要トスルカ如キ觀ナキニ非スト雖モ本法第八條ハ此種ノ申請ニモ其適用アルヘキコト勿論ナルカ故ニ此種ノ申請モ亦必スシモ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要セス口頭ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スヘシ

右ニ第三債務者ノ氏名住所トアルハ債務者ニ屬スル權利カ債權ナル場合ニ限リ之ヲ記載セシムルノ趣意ニ外ナラス

第二項 裁判所ノ手續

代位ノ申請ニ特殊ナル裁判所ノ手續ハ左ノ如シ

(一) 審問ハ之ヲ公行スヘシ(本法第七九條)

裁判上ノ代位ニ關スル事件ニ在リテハ單ニ債權者カ其債務者ニ屬スル權利ヲ行ハサレハ自己ノ債權ヲ保全スルコト能ハサルカ若クハ之ヲ保

全スルニ困難ヲ生スル虞アルヤ否ヤヲ審理判斷スルモノナレハ此種ノ事件ハ其性質普通ノ非訟事件トハ大ニ其趣ヲ異ニシ殆ント訴訟事件ト同ナルモノナリ從テ其審問ハ之ヲ祕密ニ行フノ要ナク却テ裁判ノ公平ヲ保障スル爲メ之ヲ公行スルヲ相當トス是レ此規定アル所以ナリ

(二) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第七九條)

此種ノ事件ニ在リテハ裁判ノ結果ハ單ニ債權者ト債務者トノ利害ニ關係スルニ止マリ敢テ公益ニ關係スルモノニ非サレハ檢事ヲシテ事件ニ干與セシムヘキ理由ナシ是レ此規定アル所以ナリ

(三) 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

裁判所カ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ之ヲ許可スヘキハ當然ニシテ敢テ絮説ヲ要セザル所トス而シテ裁判所カ申請ヲ理由アリト認ムルハ固ヨリ相當ノ調査ヲ爲シタル後初メテ之ヲ認ムルモノニシテ漫然之ヲ認ムルモノニ非スト雖モ而カモ非訟事件ハ審理ノ簡易敏捷ヲ貴フヘキ

モノナルニ因リ其認定ニ付キテハ裁判所自身ト雖モ必スシモ誤謬ノ絶無ヲ保證シ得ヘキモノニ非ス然ルニ申請ノ許可ハ次項ニ述フルカ如ク債務者ヲシテ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ザラシムルノ效力ヲ生スルモノニシテ從ツテ裁判ニ誤アルトキハ債務者ニ損害ヲ及ホスノ虞アルモノナルカ故ニ裁判所カ申請ヲ許可スルニ當リテハ其見込ニ依リ債權者ヲシテ豫メ擔保ヲ供セシムルコトヲ得シムルヲ適當トス是レ此規定アル所以ナリ

(四)申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ本法第七六條第一項

申請ノ許可ハ次項ニ述フルカ如ク債務者ヲシテ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ザラシムルノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ其許可ノ裁判ハ之ヲ債務者ニ告知セサルヘカラス是レ此規定アル所以ナリ

第五款 申請許可ノ效力

裁判上ノ代位ハ債權者ヲシテ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行ハシムルヲ以テ其目的トスルモノナリ然ルニ若シ申請ノ許可アリタルニ拘ラス猶ホ債務者ニ於テ其權利ヲ處分スルコトヲ得ヘキモノトセシカ申請ノ許可ハ殆ント無意義ニ歸スヘシ故ニ申請許可ノ裁判ニシテ債務者ニ告知セラレタル上ハ債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スノ能力ヲ喪失スヘキモノトス但シ其權利ニ付キ保存行爲ヲ爲スハ此限ニ在ラス(本法第七六條第二項)

第六款 抗告

裁判上ノ代位ニ關スル事件ニ付キ特ニ認メラレタル抗告ニ二アリ一ハ債權者ノ抗告ニシテ他ハ債務者ノ抗告ナリ即チ左ノ如シ

一 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ債權者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得本法第七七條第一項

二 申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス(本法第七

七條第二項

右一二ノ規定ハ當然ニシテ敢テ説明ヲ要セサル所トス但ニ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ストアルハ告知ヲ受ケタル日ヲ期間ニ算入スルノ意ナリ

第七款 手續ノ費用ノ負擔者

手續ノ費用ノ負擔者ニ關シ本事件ニ付キ特ニ設ケラレタル規定ハ左ノ如シ
抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付キテハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム(本法第七八條)

裁判上ノ地位ニ關スル事件ハ固ヨリ非訟事件ニシテ訴訟事件ニ非サルカ故ニ其手續ノ費用ノ負擔ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラサルハ勿論ナリト雖モ此種ノ事件ノ申請人ト被申請人トハ利害正反對ノ地位ニ在ル者ナレハ手續ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條第一項ヲ準シ其負擔者ヲ定ムルヲ相當トス是レ此規定アル所以ナリ但此規

定ハ單ニ抗告ノ申立アリタル場合第一審ニ於テ申請ヲ許可シタルト否トヲ問ハスニ限り之ヲ適用スヘキ事件カ第一審ノミニテ終結シタル場合ニ之ヲ適用スヘカラサルコトハ其文詞自體ニ徴シテ明白ナリ然レトモ余ハ何故ニ斯カル制限ヲ設ケタルカヲ知ルニ苦ム者ナリ蓋シ此種ノ事件ニ於ケル債權者ト債務者トハ前述ノ如ク利害正反對ノ地位ニ立タル者ナレハ假令事件カ第一審限リ終結シタル場合ト雖モ同シク民事訴訟法第七十二條第一項ニ準シ其手續ノ費用ノ負擔者ヲ定ムルヲ至當トスヘケレハナリ

第四節 保存・供託・保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

保存・供託・保管及ヒ鑑定ニ關スル事件トハ證書又ハ財産ノ保存・供託・保管及ヒ鑑定ニ關スル民事非訟事件ノ總稱ニシテ其ノ本法ニ規定セラルルモノニ九種アリ(一)共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定(二)動産質權者カ質物ヲ以テ直チニ債權ノ辨濟ニ充ツルコトノ許可(三)辨濟ノ目的物ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任(四)供託ニ關シ辨濟ノ目的物ノ競賣ノ許可(五)賣主ノ債權者カ

賣主ニ代位シテ買戻ヲ爲サント欲スルトキ買主が買戻權ヲ消滅セシメントスル場合ニ於ケル不動産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問(六)相續ノ限定承認者及ヒ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人が條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ヲ爲ス場合ニ於ケル債權ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問(七)相續ノ限定承認者か相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其親賣ヲ止メントスル場合ニ於ケル相續財産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問(八)財産分離ノ請求アリタル場合ニ於テ相續人ノ條件附債權若クハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲スニ付キ債權ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問並ニ同一ノ場合ニ於テ相續人か相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其親賣ヲ止ムルニ付キ相續財産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問(九)遺留分算定ノ爲メニスル條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問是レナリ

第一章 共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ト謂ヘルハ即チ本法第八十條第一項ニ所謂民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ヲ指稱セルモノニシテ共有物分割ノ場合ニ於テ最大部分ヲ受ケタル者ナリ而カモ其物ニ關スル證書ノ保存者ニ付キ分割者ノ協議調ハサルトキニ於テ裁判所カ其保存者ヲ指定スルコトヲ云フナリ

此指定ニ付キテハ本法ハ申立ヲ要スルモノナルヤ否ヤ又若シ申立ヲ要スルモノトモハ何人カ之ヲ爲シ得ヘキヤニ付キ何等規定スル所ナシ是レ畢竟此問題ハ民法上解決スヘキモノナルカ爲メナリ而シテ民法第二百六十二條ニ依ルモ此點ニ關スル明文ナシト雖モ其法意ハ申立ヲ必要トシ又其申立ハ其證書ノ關係アル物ノ分割ヲ受ケタル各共有者ヨリ之ヲ爲シ得ルモノトスルニ在ルヤ多辯ヲ要セスシテ明ナルヘシ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ共有物ノ分割アリタル地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト

（本法第八〇條第一項）

是レ審理上ノ便宜ヨリ出タルニ外ナラス

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

（一）裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ（本法第八〇條第二項）

茲ニ所謂「共有者」トハ其證書ノ關係アル物ノ分割ヲ受ケタル共有者ノミヲ指稱セルモノニシテ共有者ノ全體ヲ指稱セルモノニ非ス
裁判所カ果シテ保存者ヲ指定スヘキ場合ナルヤ否ヤ又共有者中ノ何人ヲ指定セハ適當ナルカラ判斷スルニ付キテハ共有者ヲ訊問シテ事實ヲ調査スルノ必要アルコト論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ
右第八十條第二項ニハ「訊問スヘシ」トアリテ「訊問スルコトヲ得」トアラサルカ故ニ裁判所ハ訊問ノ要否ヲ裁量スルノ權能ヲ有セス必スヤ其訊問ヲ爲ササルヘカラス但裁判所カ訊問ノ爲メ共有者ヲ呼出スモ共有者カ

之ニ應セサルトキ又ハ其所在不明ニシテ之ヲ呼出スコト能ハサルトキ

ハ之ヲ訊問セサルモ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ

（二）檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス（本法第八八條）

此種ノ事件ハ公益ニ關係ナキカ故ニ檢事ヲシテ之ニ干與セシムヘキ理由ナケレハナリ

（三）保存者ヲ指定シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス（本法第八九條）

是レ此種ノ裁判ハ假令不當ナルトキト雖モ格別ノ弊害ヲ生セス之ニ反シテ若シ不服ノ申立ヲ許サンカ徒ニ事件ノ進行ヲ阻害シ損害ヲ生スルノ虞アルカ爲メナリ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

裁判所カ申立ヲ採用シテ證書保存者ヲ指定シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者全員ノ負擔トス（本法第八〇條第三項）

茲ニ所謂共有者ノ意義ハ前項ニ於ケルト同一ナリ

裁判所カ證書保存者ヲ指定シタル場合ニ於テハ其裁判ハ共有者全員ノ利益トナルモノナレハ其手續ノ費用ハ共有者全員ニ於テ之ヲ負擔スルヲ相當トスヘキヤ論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

裁判所カ申立ヲ却下シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ申立人ノ負擔タルヘキコト本法第二十六條ニ規定セル所ノ如シ

第二款 動産質權者カ質物ヲ以テ直チニ債權

ノ辨濟ニ充ツルコトノ許可

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ動産質權者カ質物ヲ以テ直チニ債權ノ辨濟ニ充ツルコトノ許可ト謂ヘルハ即チ本法第八十三條フニ第一項ニ所謂民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ヲ指稱セルモノニシテ動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受タルコト能ハサルトキ正當ノ理由アル場合ニ於テ

質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充テントスルニ當リ裁判所カ之ヲ許可スルコトヲ云フナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ債務履行地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第八十三條ノ二ノ第一項第八一條第一項) 是レ審理上ノ便宜ヨリ出テタルニ外ナラス

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ
(一)裁判所ハ裁判ヲ爲ス前質權者及ヒ債務者ヲ訊問スヘシ(本法第八三條ノ二ノ第一項第八一條第二項)

裁判所カ果シテ申請ヲ許可スヘキ場合ナルヤ否ヤヲ判斷スルニ付キテハ質權者及ヒ債務者ヲ訊問シテ事實ヲ調査スルノ必要アルコト論ヲ俟

タス是レ此規定アル所以ナリ

右ニ所謂訊問スヘシタル文詞ノ意義ハ余カ前款第三項ニ於テ述ヘタル
本法第八十條第二項ニ在ル同一文詞ノ意義ニ同シ

(二) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第八八條) (ハ本編第八三條ハ二

本條ニ此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

前款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(三) 裁判所カ申請ヲ許可スル場合ニ於テハ同時ニ質物ノ價額ノ鑑定人ヲ選任
スシ且ツ其呼出及ヒ訊問ヲ爲スコトヲ要ス

是レ民法第三百五十四條ヨリ生スル當然ノ結果ニシテ敢テ細説ヲ俟タ
本條ニ於テ所トス

(四) 申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本法第八九
條)

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ
余カ前款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス(本
法第八三條ノ二ノ第二項)

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ハ即チ動產質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサ
ルトキ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルニ付キ正當ノ理由アル場合ナレハ此
場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ之ヲ債務者ニ負擔セシムルヲ相當トスヘキヤ
論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

裁判所カ申請ヲ却下シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ申立人ノ負擔タル
ヘキコト本法第二十六條ニ規定セル所ノ如シ

第三款

辨濟ノ目的物ノ供託所ノ指定及ヒ供
託物保管者ノ選任

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ辨濟ノ目的物ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ト謂ヘルハ即

テ本法第八十一條第一項ニ所謂民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ指稱セルモノニシテ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ若クハ之ヲ受領スルコト能ハサル場合又ハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ於テ債務者カ其債務ヲ免レンル爲メ辨濟ノ目的物ヲ供託セントスルトキ裁判所ニ於テ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ云フナリ

民法第四百九十五條第二項ニ依レハ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ限り之ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ供託法第一條ニ依レハ金錢及ヒ有價證券ニ付キテハ金庫ヲ以テ供託所ト定メアルカ故ニ金錢及ヒ有價證券ニ付キテハ裁判所ハ絕對ニ此指定及ヒ選任ヲ爲スヘキモノニ非ス又同法第五條ニ依レハ司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得タルカ故ニ司法大臣カ其指定ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦裁判所ハ此指定及ヒ選任ヲ爲スヘキモノニ非サルナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ債務履行地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス本法第八一條第一項

民法第四百九十五條第一項ニ依レハ供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノナルカ故ニ從ツテ本事件ハ債務履行地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄ニ屬セシムルヲ當然トス是レ此規定アル所以ナリ

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

第一目 供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ニ關スル特殊手續

此種ノ手續トシテ本法第二編第四章ニ規定セルモノ左ノ如シ

(一)裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ本法第八一條第二

項

裁判所カ果シテ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スヘキ場合ナルヤ否ヤ又其供託所及ヒ供託物保管者ヲ如何ニ定ムレハ適當ナルヤヲ判斷スルニハ債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問シテ事實ヲ調査スルノ必要アルコト論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

右第八十一條第二項ニ在ル訊問スヘシナル文詞ノ意義ハ余カ第一款第三項ニ於テ述ヘタル本法第八十條第二項ニ在ル同一文詞ノ意義ニ同シ

(二) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第八八條)

此立法上ノ理由ハ其有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(三) 供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス本法第八九條

此立法上ノ理由モ其有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第二目 供託物保管者ノ改任ニ關スル特

殊手續

裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル保管者ヲ改任スルコトヲ得但此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本法第八二條第四〇條第一項)

之ニ付キテハ本章第二節第一款第三項第一目其一二ノ説明ヲ準用スルヲ以テ足り其他ニ言フヘキコトナシ

第三目 供託物保管者ノ辭任ニ關スル手

續

供託物保管者ノ辭任ニ關スル手續ハ左ノ如シ

(一) 保管者ハ何時ニテモ其旨ヲ事件ノ管轄裁判所ニ届出ツルコトニ因リテ其任移ヲ辭スルコトヲ得本法第八二條第四〇條第二項前段

(二) 辭任ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ更ニ保管者ヲ選任スヘシ本法第八二條第四〇條第二項後段

右(一)(二)ニ付キテハ本章第二節第一款第三項第一目其第一第三ノ説明ヲ準用スルヲ以テ足り其他ニ言フヘキコトナシ

第四目 供託物保管者ト供託物ニ對スル

權利者トノ權利關係

供託物保管者ト供託物ニ對スル權利者トノ權利關係ハ之ヲ手續ト謂フコト能ハサルハ勿論ナルモ併セテ茲ニ之ヲ附説スヘシ蓋シ説明上最モ便宜ナリト思料スレハナリ

茲ニ供託物ニ對スル權利者ト言ヘルハ供託者供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リ供託物ノ返還ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ義ナリ民法第四百九六條供託法第八條

供託物保管者ト供託物ニ對スル權利者トノ權利關係ハ民法第六百五十八條第一項第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ム但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス本法第

八二條

供託物保管者ハ裁判所ノ選任ニ因リテ其資格ヲ得ル者ナレハ供託物ニ對スル權利者トノ間ニ寄託關係アルモノニ非ス從ツテ寄託ニ關スル民法第三編第二章第十一節ノ規定ハ當然之ヲ保管者ト供託物ニ對スル權利者トノ間ニ適用シ得ヘキニ非スト雖モ面カモ裁判所カ保管者ヲ選任スルハ畢竟供託物ニ對スル權利者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナレハ保管者ト權利者トノ權利關係ト寄託ノ場合ニ於ケル受寄者ト寄託者トノ權利關係ニ準スルヲ相當トス是レ此規定アル所以ナリ而シテ茲ニ民法第六百五十八條第二項第六百六十二條第六百六十三條及ヒ第六百六十五條以下ヲ準用セザリシハ此等ノ規定ハ孰レモ其性質上之ヲ保管者ノ場合ニ適用シ難キカ爲メ又民法第六百六十條ノ通知ヲ辨濟者ニ爲サシムルコトシタルハ同條ノ場合ニ於テ最モ利害ノ關係ヲ有スル者ハ辨濟者ニ外ナラサルカ爲メナリ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

裁判所カ申立ヲ採用シテ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス(本法第八一條第三項)

裁判所カ申立ヲ採用シテ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲シタル場合ハ即チ債權者カ辨濟ヲ拒ミ若クハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ又ハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキナルカ故ニ此場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ之ヲ債權者ニ負擔セシムルヲ相當トスヘキヤ論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

裁判所カ申立ヲ却下シタル場合ニ於テ其手續ノ費用ハ申立人ノ負擔タルヘキコトハ本法第二十六條ニ規定セル所ノ如シ

第四款 供託ニ關シ辨濟ノ目的物ノ競賣ノ許可

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ供託ニ關シ辨濟ノ目的物ノ競賣ノ許可ト謂ヘルハ即チ本法第八十三

條ニ所謂「民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ヲ指稱セルモノニシテ辨濟ノ目的物カ供託ニ適セサルトキ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキニ於テ辨濟ノ目的物ニ代ヘ其代價ヲ供託セシムル爲メ裁判所カ其目的物ノ競賣ヲ許可スルコトヲ云フナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ債務履行地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第八三條第八一條第一項)

此立法上ノ理由ハ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ニ關スル本法第八十一條第一項ニ關シ余カ前款第二項ニ述ヘタル所ニ同シ

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

(一)裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ(本法第八三條第八

一條第二項

之ニ付キテモ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ニ關シ余カ前款第三項第一目ニ於テ爲シタル説明ヲ準用スルヲ以テ足り其他ニ言フヘキコトナシ

(二) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第八八條)

此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(三) 競賣ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本法第八九條)

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

裁判所カ申立ヲ採用シテ競賣ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權

者ノ負擔トス(本法第八三條第一條第三項)

裁判所カ申立ヲ採用シテ競賣ヲ許可シタル場合ハ即チ供託ニ付キ換價ノ止ムヲ得サル場合ニシテ而シテ辨濟者カ供託ヲ爲スハ即チ債權者カ辨濟ヲ拒ミ若クハ之ヲ受領スルコト能ハス又ハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルカ爲メナレハ(民法第四九五條此場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ之ヲ債權者ニ負擔セシムルヲ相當トスヘキヤ論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ

裁判所カ申立ヲ却下シタル場合ニ於テ其手續ノ費用ハ申立人ノ負擔タルヘキコトハ本法第二十六條ニ規定セル所ノ如シ

第五款

賣主ノ債權者カ賣主ニ代位シテ買戻ヲ爲サント欲スルトキ買主カ買戻權ヲ消滅セシメントスル場合ニ於ケル不動産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ賣主ノ債權者カ賣主ニ代位シテ買戻ヲ爲サント欲スルトキ買主カ買戻權ヲ消滅セシメントスル場合ニ於ケル不動産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ト謂ヘルハ即チ本法第八十四條第一項ニ所謂民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲ指稱セルモノニシテ賣主ノ債權者カ賣主ニ代位シテ買戻ヲ爲サント欲スルトキ買主カ不動産ノ現時ノ價額ヨリ買主カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシメントスル場合ニ於テ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ其價額ヲ評價セシムルコトヲ云フナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ不動産所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス本法第八十四條第一項ニ規定スル管轄ノ規定ハ本事件ニ適用スルコトヲ明シタルニ外ナラス是レ審理上ノ便宜ヨリ出テタルニ外ナラス

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

(一) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス本法第八八條

此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(二) 鑑定人ヲ選任シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス本法第八九條

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

裁判所カ申立ヲ採用シテ鑑定人ヲ選任シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用並ニ鑑定人ノ呼出及ヒ訊問ノ費用ハ買主ノ負擔トス本法第八四條第二項

裁判所カ鑑定人ヲ選任シ其呼出及ヒ訊問ヲ爲シタル場合ニ於テハ其裁判並

ニ其呼出及ヒ訊問ハ買主ノ利益ト爲ルモノナレハ其費用ハ買主ノ負擔トスルヲ相當トスヘキヤ論ヲ俟タス是レ此規定アル所以ナリ
裁判所カ申立ヲ却下シタル場合ニ於テモ其手續ノ費用ハ申立人即チ買主ノ負擔タルヘキコトハ本法第二十六條ニ規定セル所ノ如シ
右ノ如ク既ニ本法第二十六條ノ規定アルニ立法者ハ何故ニ右第八十四條第二項ノ規定ヲ設ケタルカト云フニ第二十六條ノ規定ハ鑑定人ノ呼出及ヒ訊問ノ費用ヲ包含セサルカ故ニ該費用ニ付キ特ニ規定ヲ設クルノ必要アルヲ以テ第八十四條後段ノ規定ヲ設ケタルモノ而シテ其前段ノ規定ハ畢竟其後段ノ規定ヲ呼起スノ前提タルニ過キサルナリ

第六款

相續ノ限定承認者及ヒ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人カ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲ス場合ニ於ケル債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ相續ノ限定承認者及ヒ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人カ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲ス場合ニ於ケル債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ト謂ヘルハ即チ本法第八十五條ニ所謂「民法第三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲ指稱セルモノニシテ相續ノ限定承認者及ヒ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人カ民法第三十二條又ハ第五十七條第一項ノ公告ヲ爲シ其公告ニ定メタル債權申出期間満了ノ後相續債權者ニ辨濟ヲ爲ス場合ニ於テ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ價格ヲ評價セシムルコトヲ云フナリ

本法第八十五條ニハ單ニ民法第三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問トアリテ民法第五十七條第二項ノ文詞ナキカ故ニ文字上ヨリ嚴格ニ

解釋スルトキハ民法第五十七條第二項ニ規定セル相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人カ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲ス場合ニ於ケル債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ハ同條中ニ包含セラレサルモノト謂フヘキカ如シト雖モ余ハ第二節第四款第一項ニ於テ述ヘタルト類似ノ理由ニ因リ余ハ前陳ノ如ク同條ニ所謂民法第三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問中ニハ同法第五十七條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲモ包含セルモノト解釋スルヲ妥當ト信スルナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ何レモ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス本法第八五條

相續開始地ハ即チ被相續人ノ住所地ナレハ(民法第九六五條第九九三條之ヲ管轄スル裁判所ハ本事件ノ審理上最モ便宜ナル地位ニ在ルカ爲メナリ

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

(一) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス本法第八八條

此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(二) 鑑定人ヲ選任シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス本法第八九條

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

本件ノ鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス(本法第八七條)

茲ニハ單ニ鑑定人ノ選任ニ關スル費用トアリテ本法第八十一條第三項第八十四條第二項等ニ於ケルカ如ク選任ヲ爲シタル場合ニ於テハノ文詞ヲ冠シアラサルモ其意義ニ至リテハ別ニ差異ナキモノト解セサルヲ得ス何トナレ

ハ申立カ却下セラレタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ニ負擔セシムヘキニ非スシテ申立人ニ負擔セシムヘキコト當然ナレハナリ
茲ニ所謂選任ニ關スル費用トハ獨リ選任ノ裁判ニ關スル費用ノミナラス鑑定人ノ呼出及ヒ訊問ニ關スル費用ヲモ包含スルモノトス
此立法上ノ理由ハ此手續ハ被相續人ノ債務ヲ辨濟スル爲メニ必要ナルモノナルカ故ナリ

第七款

相續ノ限定承認者カ相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止メントスル場合ニ於ケル相續財産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ相續ノ限定承認者カ相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止メントスル場合ニ於ケル相續財産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ト謂ヘルハ即チ

本法第八十五條ニ所謂民法第三十四條ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲ指稱セルモノニシテ相續ノ限定承認者カ民法第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ從ヒテ相續債權者及ヒ受遺者ニ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財産ノ競賣ヲ必要トスルニ當リ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止メントスル場合ニ於テ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ其價額ヲ評價セシムルコトヲ云フナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス本法第八十五條

此立法上ノ理由ハ相續ノ限定承認者又ハ相續人アルコト分明ナラサル相續財産ノ管理人カ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲ス場合ニ於ケル債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ニ關シ余カ前款第二項ニ述ヘタル所ニ同シ

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

(一) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第八八條)

此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(二) 鑑定人ヲ選任シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本法第八九條)

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

本件ノ鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス(本法第八七條)

此規定ノ意義ハ前款第四項ニ於テ既ニ之ヲ説明セルヲ以テ重テ之ヲ贅セ

ス

此立法上ノ理由ハ此手續ハ被相續人ノ債務ヲ辨濟スル爲メニ必要ナルモノナルカ故ナリ

第八款

財産分離ノ請求アリタル場合ニ於テ相續人カ條件附債權若クハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲スニ付キ債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問竝ニ同一ノ場合ニ於テ相續人カ相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルニ付キ相續財産ノ價額ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ財産分離ノ請求アリタル場合ニ於テ相續人カ條件附債權若クハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ辨濟ヲ爲スニ付キ債權ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及

ヒ訊問並ニ同一ノ場合ニ於テ相續人カ相續財産ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルニ付キ相續財産ノ價額ヲ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ト謂ヘルハ即チ本法第八十六條ニ所謂民法第四百七條及ヒ第一千五百條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲ指稱セルモノニシテ相續債權者受遺者又ハ相續人ノ債權者ヨリ財産分離ノ請求アリ相續人カ民法第四百七條又ハ第一千五百條ニ從ヒ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ爲ス場合ニ於テ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ノ價格ヲ評價セシムルコト並ニ同一ノ場合ニ於テ相續財産ノ競賣ヲ必要トスルニ當リ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止メントスルトキ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ其價額ヲ評價セシムルコトヲ云フナリ

第二項 事件ノ管轄裁判所

本事件ハ何レモ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第八十六條第六七條)

此規定ノ意義及ヒ立法上ノ理由ハ財産分離ノ請求アリタル場合ニ於ケル相續財産ノ管理ニ關スル事件ニ付キ余カ第二節第七款第二項ニ述ヘタル所ニ同シ

第三項 事件ノ手續

本事件ニ特殊ナル手續左ノ如シ

(一) 檢事ハ事件ニ干與スルコトヲ得ス(本法第八八條)

此立法上ノ理由ハ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ

余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

(二) 鑑定人ヲ選任シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(本法第八九條)

此立法上ノ理由モ共有物分割ノ場合ニ於ケル證書保存者ノ指定ニ關シ余カ第一款第三項ニ述ヘタル所ニ同シ

第四項 手續ノ費用ノ負擔者

非訟事件手続法

各論 民事非訟事件 保存、供託、保管及び鑑定ニ關スル事件

本件ノ鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス本法第八七條

此規定ノ意義ハ第六款第四項ニ於テ既ニ之ヲ説明セルヲ以テ重テ之ヲ贅
セス

此立法上ノ理由ハ此手續ハ被相續人ノ債務ヲ辨濟スル爲メニ必要ナルモノ
ナルカ故ナリ

第九款

遺留分ノ算定ノ爲メニスル條件附權
利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ノ
價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問

第一項 事件ノ意義

余カ茲ニ遺留分ノ算定ノ爲メニスル條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利
利ノ價格ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ト謂ヘルハ即チ本法第八十五條ニ所謂
「民法第百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ヲ指稱セルモノ」ニシ
テ遺留分ノ算定ノ爲メ裁判所カ鑑定人ヲ選任シテ條件附權利又ハ存續期間ノ

報 載

○商標ト意匠 商標法ニ依リ登錄シタル商標ヲ一般世人カ看テ以テ意匠ナ
リト爲ス場合ニ於テハ果シテ商標トシテ對抗スルコトヲ得サルカ此問題ニ對
シ特許局ハ積極的審決ヲ與ヘタルカ大審院ハ之ヲ破毀シテ曰ク自己ノ商品ヲ
表彰スル爲メ商標ヲ專用セントスル者ハ商標法第二條第一乃至第七號ニ該當
セサル圖形文字又ハ記號ヲ以テ其商標ト爲シ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ
得ルハ同第一條第二條ノ規定スル所ナリ而シテ同第二條第一乃至第七號ハ禁
止ノ場合ヲ制限シテ列舉シタルモノニシテ單ニ禁止ノ場合ヲ例示シタルモノ
ニ非サルコトハ之ヲ同法ノ行文ニ照シ復其法意ニ徴シテ毫モ疑ヲ容レヌ然ラ
ハ即チ苟モ同條第一乃至第七號ニ該當セサル以上ハ如何ナル圖形ニテモ之ヲ
以テ自己ノ商標ト爲シ其登錄ヲ受ケ得ヘク既ニ登錄ヲ受ケ所謂登錄商標トナ
リタル以上ハ其結果トシテ右圖形ノ巧妙ニシテ新規ノ意匠ヲ按出シタルモノ
タルト拙劣ニシテ古昔ヨリ有來リタルモノナルトヲ問ハズ世人カ見テ以テ商

標ト爲スト爲ササルトラ間ハ法律上等シク之ヲ以テ商標ト爲ササルヘカラ
ス若シ夫レ商人カ其商品ヲ表彰スル爲メ既ニ使用スルモ未タ商標トシテ登録
ヲ受ケサル圖形ニ至リテハ使用者ニ於テ商標トシテ之レヲ使用シ世人モ亦見
テ以テ商標ナリト爲スモノハ即チ法律上所謂登録ヲ受ケサル商標ナリト雖モ
獨リ使用者ノミ自己ノ商標ナリトシテ一ノ圖形ヲ使用スルモ世人カ見テ以テ
商品ヲ表彰スル目標ナリトセサルトキハ法律上之レヲ以テ商標ナリトスルヲ
得ス何トナレハ使用者ノ意思ノミヲ以テ世人ヲ拘束シ其意ニ反シ強テ其圖形
ヲ以テ商品ヲ表彰スル所ノ目標ナリ商標ナリトセシメ得ヘキ條理ナケレハナ
リ之ヲ要スルニ登録商標ハ法律ノ效力トシテ世人カ見テ以テ商標トセサルモ
法律上商標タルヲ失ハスト雖モ登録ヲ受ケサル圖形ニ至リテハ世人カ見テ以
テ商標ナリトスルトキハ商標ト爲シ得ヘキニ止マリ世人カ見テ以テ商標ナリ
ト爲ササルトキハ之ヲ以テ商標トスルヲ得サルモノトス故ニ商品ニ使用セラ
レタル圖形カ商標ナリヤ否ヲ判定センニハ必ス先ツ該圖形カ商標トシテ既ニ
登録ヲ受ケタルヤ否ヲ判定シ未タ登録ヲ受ケサルモノニ係ルトキハ世人カ該

圖形ヲ見テ以テ商標ト爲スヤ否ヲ判定セサルヘカラサル筋合ナリ然ルニ原審
ニ於テハ登録ヲ受ケタル商標タルト未タ商標トシテ登録ヲ受ケサル圖形タル
トヲ問ハス世人カ見テ以テ商標ナリトセサルモノハ法律上總テ之ヲ以テ商標
ナリトスルヲ得サルモノトシ此見地ニ基キ本案甲第十一號證即チ訴外人三平
株式會社カ其製造ノ卸鈕ノ表面ニ押用スル圖形ハ商標トシテ登録ヲ受ケタル
モノナルヤ否ヲ判定セス世人カ該圖形ヲ見テ以テ商標ナリト爲ササルトノ理
由ニ依リ該圖形ハ商標ニアラスト判定シタルハ即チ法律ヲ不法ニ適用シタル
モノニシテ破毀ノ原由アル不法ノ審決タルヲ免レスト(大審院明治三十八年(才)第四
百五號商標登録無效審判事
件明治三十八年十二月
十五日第二民事部判決)

○擔任講師ノ變更 郡制講義擔任講師松浦學士歐洲留學ヲ命セラレ去月中
旬渡歐セラレタルニ由リ其後任ヲ農商務省水產局書記官兼農商務省參事官法
學士島村他三郎氏ニ囑託シ該講義ハ本號ヨリ之ヲ掲載スルコトセリ
○討論會及ヒ雄辯會 雜報一〇六頁乃至一〇八頁ニ於テ報道シタル以後ノ兩
會ノ概略ヲ記セハ左ノ如シ

甲アリ急流ニ陥リテ將ニ溺死セントス乙アリ水ニ入リテ之ヲ救ハントス
乙ノ妻丙之ヲ見テ以爲タ乙或ハ甲ヲ救ヒ得ン然レトモ恐クハ共ニ溺死ス
ルヲ免レララント依テ乙ヲ防止シテ其意ヲ遂ケシメス甲爲メニ終ニ死シ
タリ丙ノ所爲ノ刑法上ノ性質如何牧野學士出題



明治三十九年三月四日印刷
明治三十九年三月七日發行
（定價金貳拾五錢）

編輯者 萩原敬之

東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮山信好

東京市牛込區牛込矢板町三番地

印刷所 金子活版所

東京市芝區西久保明滑町十一番地

發行所 司法省 法政大學

指定
（電話番町百七十四番）

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

（明治三十八年九月二十七日第三種郵便物認可）
（郵月二四十二日二十九日發行）